

共同生活援助事業所 悠炉里 令和7年度 第1回地域連携推進会議 議事録

開催日時：令和7年7月12日 土曜日 10時～12時

1. 開催場所：悠炉里スカイハイツ 大広間

2. 出席者： 利用者代表 大平裕也氏

利用者家族代表 池田イミ氏

地域代表 加津佐地区民生委員 太田秀夫氏

福祉知見者 荒木美枝子氏

市町村福祉担当者 氏原巧氏

施設職員（事務局） 志賀俊紀（施設長）

井村一美・大場康生（サービス管理責任者）

井上翼・田栗ひろ子（副主任）

3. 会議内容

① 施設長より

悠炉里は、障害者の方が地域の中で生活が行えるように、町中に戸建てのホームとして設立されている。

② 自己紹介

参加者による自己紹介

③ 地域連携推進会議の概要説明

令和7年度より事業所の設置する共同生活住居を見学する機会を設けることが、義務化されたことの説明を行う。（別紙あり）

④ 施設見学

Dユニット→杜垣荘、稲垣荘住居見学、担当職員により説明。

Cユニット→千代垣荘、友垣荘住居見学

Bユニット→紫雲荘住居見学。参加代表者大平さんより、生活状況説明。

Aユニット→本部であるハイツ、コーポ住居見学。

⑤ 意見交換会（施設見学を終えて感じたこと）

（氏原さんより）

- ・高齢化になってきていて、介護保険への移行について
（各市町村で、違いがあり、介護保険判定を数名受けていると説明を行っている。）
- ・避難訓練について
（年２回、各ホーム実施している。火事想定として、個人の携帯電話で、本部であるハイツへ電話を掛け、ハイツより消防署へ通報訓練を実施を行っている。）
（昨年度、台風時、ハイツへ避難し実際災害用食事として、非常食を摂取し訓練を行っている。）
- ・稲垣荘を見学し、リフォームされているが、居室の入口に段差があり、今後スロープが必要になるのでは。

（太田さんより）

- ・稲垣荘を見学して、災害が起きた時建物が昔ながらの造りであり、廊下が狭く暗い。非常口、逃げ口が気になる。外に段差があり、逃げ場がないと感じた。

（荒木さんより）

- ・ほかにわ共和国にたくさんの施設があったのを知りました。
- ・参加者の大平さんに「楽しいですか？」と問うと、「楽しいです。」と聞くことができました。職員さん、日々お疲れ様です。

（池田さんより）

- ・非常食などの準備などは？
（各ホームで、カップ麺、ガスコンロ、水等準備している。）

* 緊急時の対応については、人命尊重を第一に考える。

* 地域生活を行うことで、理解していただけるように広める。その為にも、今回のような会議を実施し、改善できるところを行う。